

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

広島県 東広島市立磯松中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等）を設け、  
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成29年10月18日 (水)
- 場 所 : 東広島市立磯松中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年2組 (33名)
- オリンピック : 橋 雅子 先生 (水泳・シンクロナイズドスイミング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



・橋先生から簡単な自己紹介をした後、3つのオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝挑戦する」、「フレンドシップ＝仲間・絆」、「リスペクト＝尊敬」とそれぞれの意味を説明。運動の時間はこれらのバリューを意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



・3チームに分かれ8の字跳びを実施。制限時間90秒間に跳べた回数を競う。各回終了後に60秒間の作戦タイムを設け、橋先生は、縄の長さを工夫することをアドバイスを送った。

・最後にクラス全員跳びに挑戦。

## 4. まとめ



・8の字跳びや大縄跳びに取り組む姿勢 (全員で協力していたこと、声を掛け合っていたこと、フォローしあっていたこと等) がオリンピックバリューに当てはまることを伝え、次の座学の時間では橋先生の経験も踏まえ、さらに説明をすと話し、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・ 2007年世界選手権フリーコンビネーションの映像を見せながらシンクロナイズドスイミングについて紹介。
- ・ オリンピックバリューを全員で音読した後、競技を始めてからオリンピックに出場するまでの橋先生の実験をオリンピックバリューに当てはめながら説明。

3. グループワーク



- ・ 発問：合唱コンクールへ向けて意識して取り組みたいことをオリンピックバリューに当てはめて考えよう。
- ・ 発表：他のクラスよりも練習する、メリハリをつける、向上心を持つ、小さな目標を立てて努力する、全力で歌いきる（エクセレンス）、仲間と高めあう、クラスで協力する、アドバイスしあう、声を掛けあう（フレンドシップ）、失敗した時に励ます、練習時間を大切にする、クラスメイトに感謝する（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・ オリンピックバリューについてたくさん意見を出してくれたように、これから先につらいことがあった時に今日の授業を思い出してほしい。皆にはこれからたくさんの可能性があるので、新しいことに挑戦してほしいと伝える。
- ・ 東京2020大会では、オリンピックを身近に感じて、選手として出場する、ボランティアとして参加する、テレビで応援する等オリンピック携わってほしいと話し、橋先生は今日皆に出会えたことにも感謝していると伝え、授業終了。



- 期 日 : 平成29年10月19日 (木)
- 場 所 : 東広島市立磯松中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (33名)、2年4組 (34名)
- オリンピック : 中川 真依 先生 (水泳・飛込み)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・中川先生から簡単な自己紹介をした後、3つのオリンピックバリューについて「エクセレンス=全力で取り組む」、「フレンドシップ=協力する」、「リスペクト=ライバルと認め合う」と説明し、運動の時間もバリューを意識しながら楽しく取り組んでほしいと伝え、準備体操へ移る。

3. 主運動



・3チームに分かれ8の字跳びを実施し、制限時間90秒間で跳べた回数を競う。各回終了後に60秒間の作戦タイムを設け、全3回戦実施。各回挑戦前にチームで目標回数を決めて、「跳ぶ人同士の間隔を縮める」、「縄の動きをしっかりと見る」等の目標立てて取り組んだ。

4. まとめ



・オリンピックバリューを実践できたかを確認し、中川先生から他チームのいいところを取り入れる (リスペクト) 等運動の時間にもバリューを実践できていたと話し、次の座学の時間ではバリューについてより詳しく説明すると伝え、運動の時間を終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・簡単な自己紹介の後、映像を見せながら競技や中川先生の競技生活について紹介。オリンピックを目指したきっかけや自身の競技生活を通して経験したことをオリンピックバリューに当てはめながら説明。

3. グループワーク



・発問：合唱コンクールで金賞を取るために取り組みたいことを、オリンピックバリューにあてはめて考えよう。  
 ・発表：最後まで諦めずに歌いきる、練習からベストを尽くす、自信を持つ(エクセレンス)、仲間を信じる、皆で話し合いお互いを高め合う、クラスで協力する(フレンドシップ)、他のクラスの良いところを取り入れる、他のクラスの頑張りを認める(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・合唱コンクール本番へ向け、皆で力を合わせて同じ目標へ向かって練習すると結果にも表れるので頑張ってもらいたいと話す。  
 ・2020年には東京でオリンピックが開催されるが、広島県は色々な国の合宿を招致しているので、選手として出場するだけでなく、観客やボランティア等様々な方法でオリンピックに携わって、一緒にオリンピックを盛り上げよう伝え、授業終了。





■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集 合 写 真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 証明書贈呈

